

Life Style

第2節 新しいライフスタイルを求めて 遊びは生活のスパイス 自分時間を充実させて

活発化するレジャー・余暇活動

「暮らし」の項でも触れたが、総理府の調査によると、これから「レジャー・余暇生活」に生活の力点をおきたいと思っている人は32%（62年）で「住生活」や「食生活」をおさえて、58年からずっとトップに立っている。

しかし、今の「レジャーや余暇生活」に満足しているかというと、半数（51%）の人は不満を覚えている。特に男性は不満派が多く、これに対して女性は満足派の方が多い。

実際の「余暇の過ごし方」は、「テレビや雑誌」がもっとも多く、「家族とのだんらん」や「何もしないでのんびり」が続く。この静かな過ごし方のベスト3に次いで平日は「友達とのつきあい」、週末には「飲食、ショッピング」、3日以上上の休日には「宿泊旅行」と、活動的なものが顔を出す。

また、NHKの調査によると、スポーツや行楽、けいこことといったレジャー活動は、平日

・土・日を問わず、増えている。
遊び方はいろいろ
貴重な自分のための自由な時間、さあ何をしようか。

市民の余暇活動として多いのは、①スポーツをする、②趣味活動をする、③ショッピング、④読書、⑤音楽を聴く、の順番になっている。趣味活動の中には、パソコンや俳句など、さまざまなものが含まれている。

1人でぶらりと、あるいは友人と連れ立って



連日、熱のこもった応援や催しか続けられる横浜スタジアム



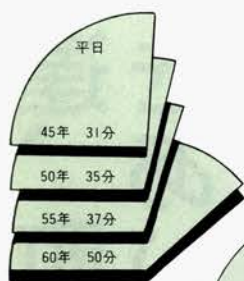
市民データ おもしろ

- 好きなプロ野球チームは 18%
 - 地元の横浜大洋ホエールズ 42%
 - やっぱり？圧倒的な巨人ファン
- ビデオソフトをよく買ったり 19%
 - 借りたりする人は全体で 41%
 - 20代はビデオ世代でぐっと増えて
- コンサートや演劇に年に5回以上 12%
 - 行く人
 - 好きな音楽ジャンルベスト5
 - ①演歌 ②ニューミュージック ③クラシック
 - ④ポップス ⑤調歌謡曲 ⑥民謡
 - 40代はタンゴ、50代はクラシックが上位

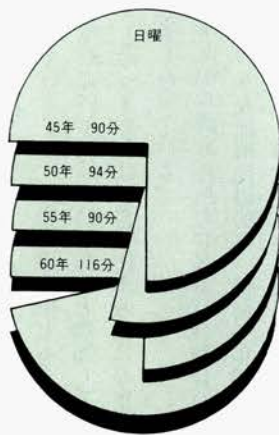
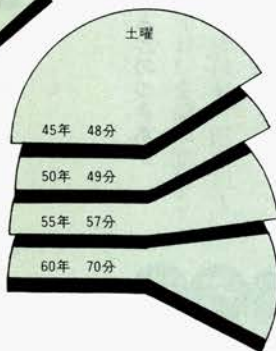
「遊びに行く」のは、どこの街か。全体では、横浜駅西口が断然トップで、以下②横浜駅東口、③伊勢佐木町、④渋谷、⑤元町と続く。世代別に見ると、若い20代は渋谷や横浜駅東口、元町が好き、40〜50代では中華街派が目立ち、60代になると鎌倉、60〜70代で伊勢佐木町の人気が高い。

Life Style

■積極化する「レジャー活動」



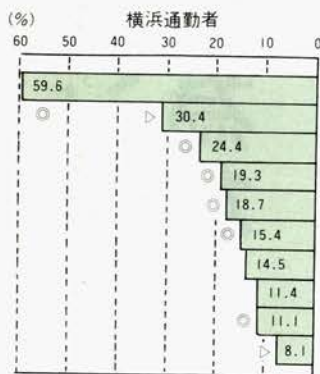
屋外で行うスポーツや行楽、散策、屋内で行うけいこことやレコード鑑賞などの「レジャー活動」に費やす時間は、年々増加している。



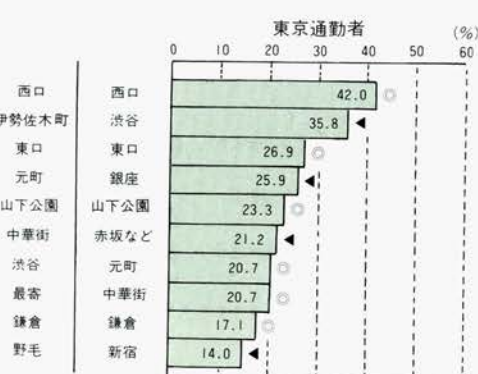
NHK「国民生活時間調査」

東京へ通勤している人には渋谷や銀座など都内の盛り場が人気を集め、市内通勤者には伊勢佐木町・野毛をあげる人が多いが、これは勤め帰りにちよつと寄る、ということだろう。
自分時間を大切にする時遊人
「タイム・イズ・マネー」という言葉がある。かつては働くための時間はとても貴重だ、とい

■よく遊びに行く街



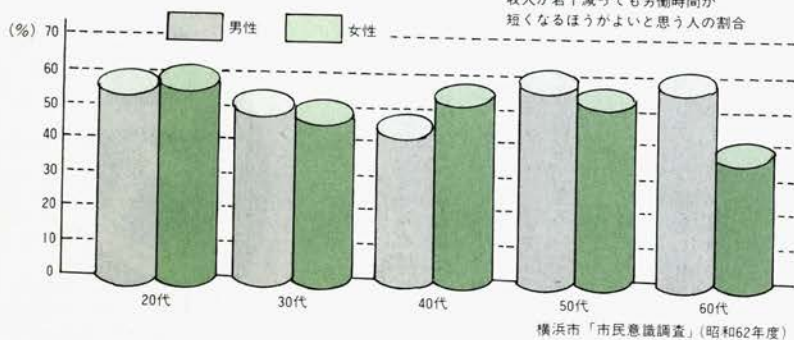
▷横浜通勤者に人気高



◀東京通勤者に人気高

横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

■今や「時間」の方が「収入」より貴重?



収入が若干減っても労働時間が短くなるほうがよいと思う人の割合

う意味だったが、今はどうやら遊ぶための時間が、何より大事ということのようだ。
「収入が若干減っても、労働時間が短くなるほうが望ましい」と考える人は市民の50%。この遊ぶ時間を楽しむ「時遊人」は若い人だけではなく、今やほとんどの世代で多数派だ。
時遊人たちは、まだまだ休みが足りないと思

っている。「休日を増やしたほうがいい」と思っている人は53%。20代は7割を超える。
しかし、市内の30人以上の事業所を対象にした調査では、75%が何らかのかたちで週休2日制を実施しているものの、連続した休みは、年末年始6日、ゴールデンウィーク4日、夏休み6日と、欧米のバカンスに比べれば、まだまだ短い。